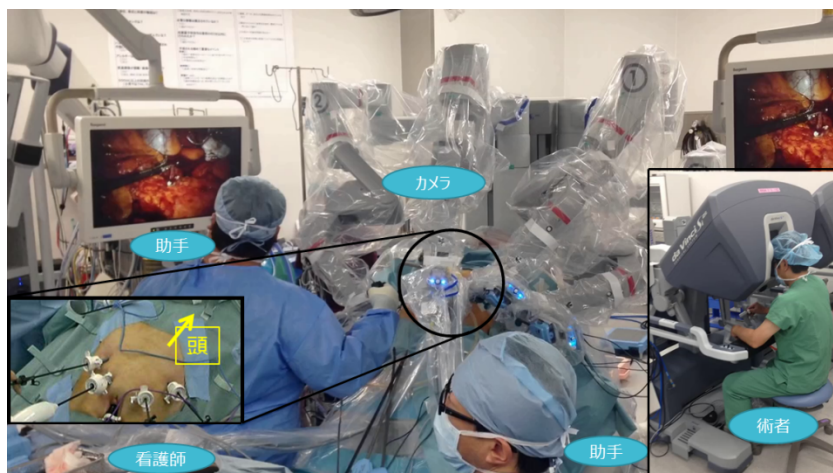


## I. 上部消化管悪性疾患

### 1) 胃疾患

胃がん、胃粘膜下腫瘍が主な対象疾患です。胃がんに対しては、2001年から腹腔鏡下手術を導入しました。また、胃切除後のさまざまな障害に着目して、早期胃癌に対してはセンチネルリンパ節検索を用いた胃機能温存手術の全国多施設共同研究に参加し、癌治療の根治性を担保しつつ手術の低侵襲化と機能温存を目指しています。また2017年からは従来の腹腔鏡手術に加えロボット支援胃切除術も導入し現在までに施設認定も取得し、さらに精密で合併症の少ない手術を目標としています。進行癌に対しては、術前または術後の化学療法も行っております。手術不能例や再発症例の治療の一手段として、化学療法も積極的にを行い集学的治療をさらに進めております。

胃粘膜下腫瘍に対しては、胃を出来るだけたくさん温存し機能を保つ目的で、近年腹腔鏡手術と内視鏡手術と両方のアプローチで手術を行う腹腔鏡内視鏡合同手術(LECS)を施行しています。この手術法は上述のセンチネルリンパ節ナビゲーション手術と組み合わせることにより早期胃癌にも適応して患者様の生活の質(QOL)の向上を目指しています。



### 2) 胃がんの症例数年次推移

